



A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 B 13 14 15 17 18 19



鶴屋南北作

後日物語
いふは演義

2378
210



2378
2/0

世國

女扇 後日

開版

合者全部

十二冊

後編

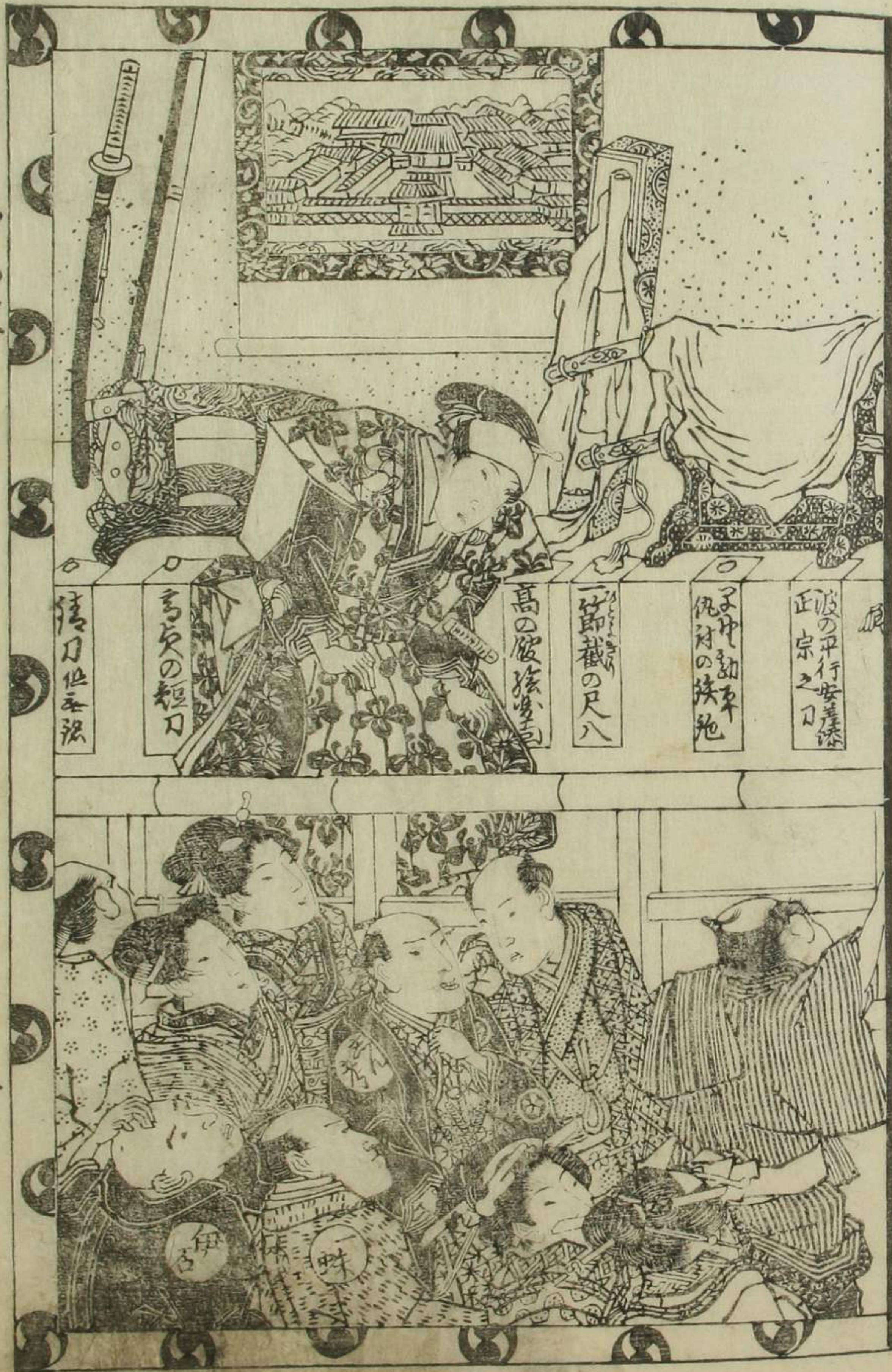
勸善懲惡女兒感戒之
小冊今舉行者也
文政十一年 文壽堂 敬白

後編壹

後日いろは綴起

柳假名年本津波屋の起り竹田出雲の作中、と京都大坂を
 以り、所々の衆、群みあがり、亦京都あつた下り山本京四郎を
 大星役の祖として、近頃哥、氣妓、立者、七役と増補、操、たま
 幕、あつた、五文を、けいし、年毎に、真行、ある、い、ま、は、く
 威、ん、る、事、是、ま、い、て、忠臣義士の、い、ま、は、代、も、英、名、の
 折、あ、る、し、且、ま、出雲の、名、代、威、す、に、け、い、し、其、徳、風、小、鹿、き
 後、見、の、世、界、と、定、め、及、ま、い、る、熱、闘、も、女、扇、を、題、号、し、て
 五、渡、亭、乃、画、面、に、綴、り、書、く、は、童、子、孫、の、い、ま、は、保、を、と、も、も
 女、く、忠、孝、の、い、ま、は、も、あ、る、と、定、め、つ、る、や

南北苑人戯述



近松翁文之写

三代目
澤村調子画像
大星由良之助
良雄

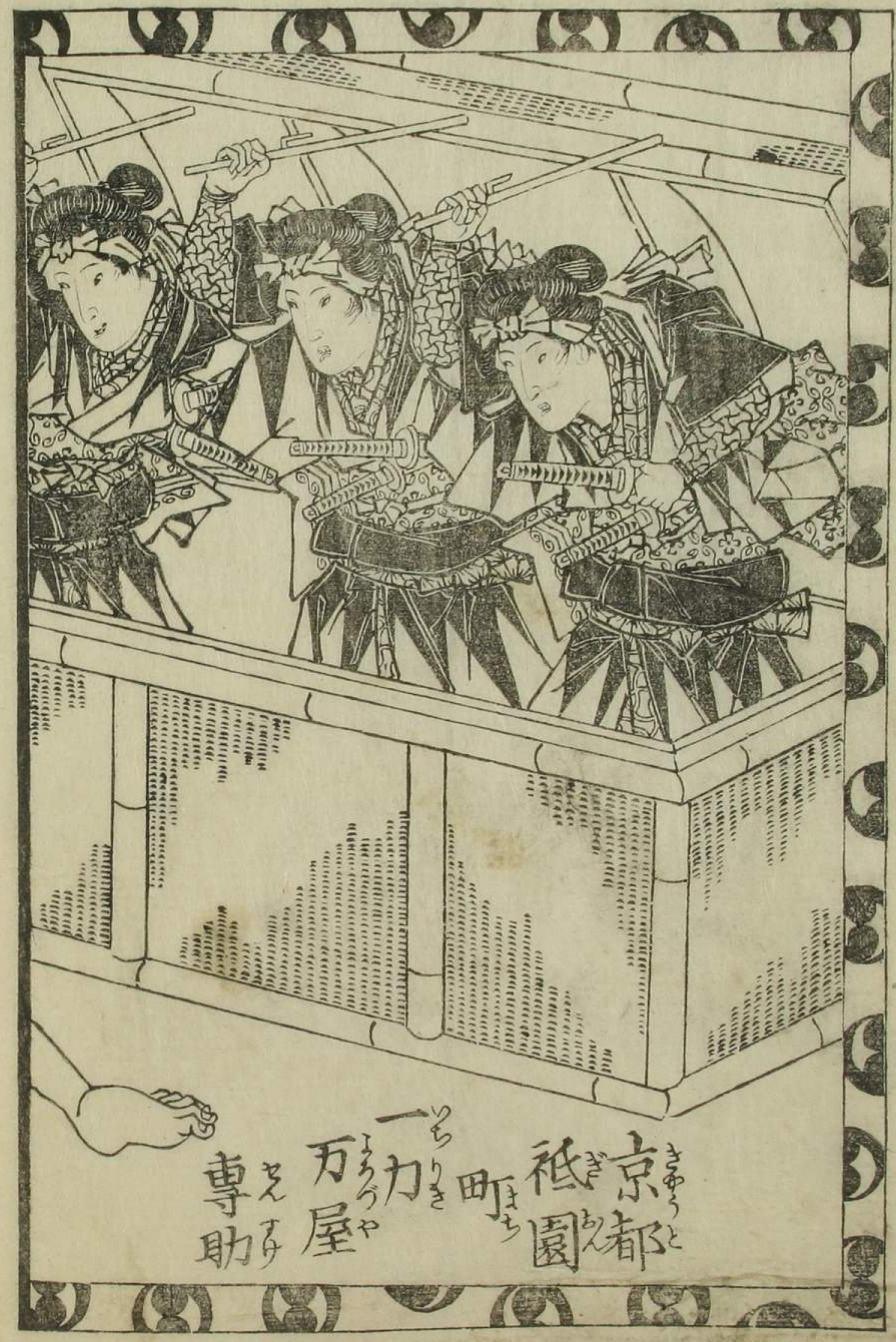
大星由良之助
良雄

此後一休も二月に片
 舟中書院とて作ると
 くうきさた居との
 評判つてもともや
 ん修職の傍十部を
 所々書我夜打に
 九段とある夕暮無か
 い下也昔月にも要
 あまは主のりうあ
 方ね赤雲くゆ
 河江のさるえより
 あり

正松同金
 七ノカ
 京都
 平角孫

教書やふふ
 然るれ 抄あなほ

金井三笑
之極

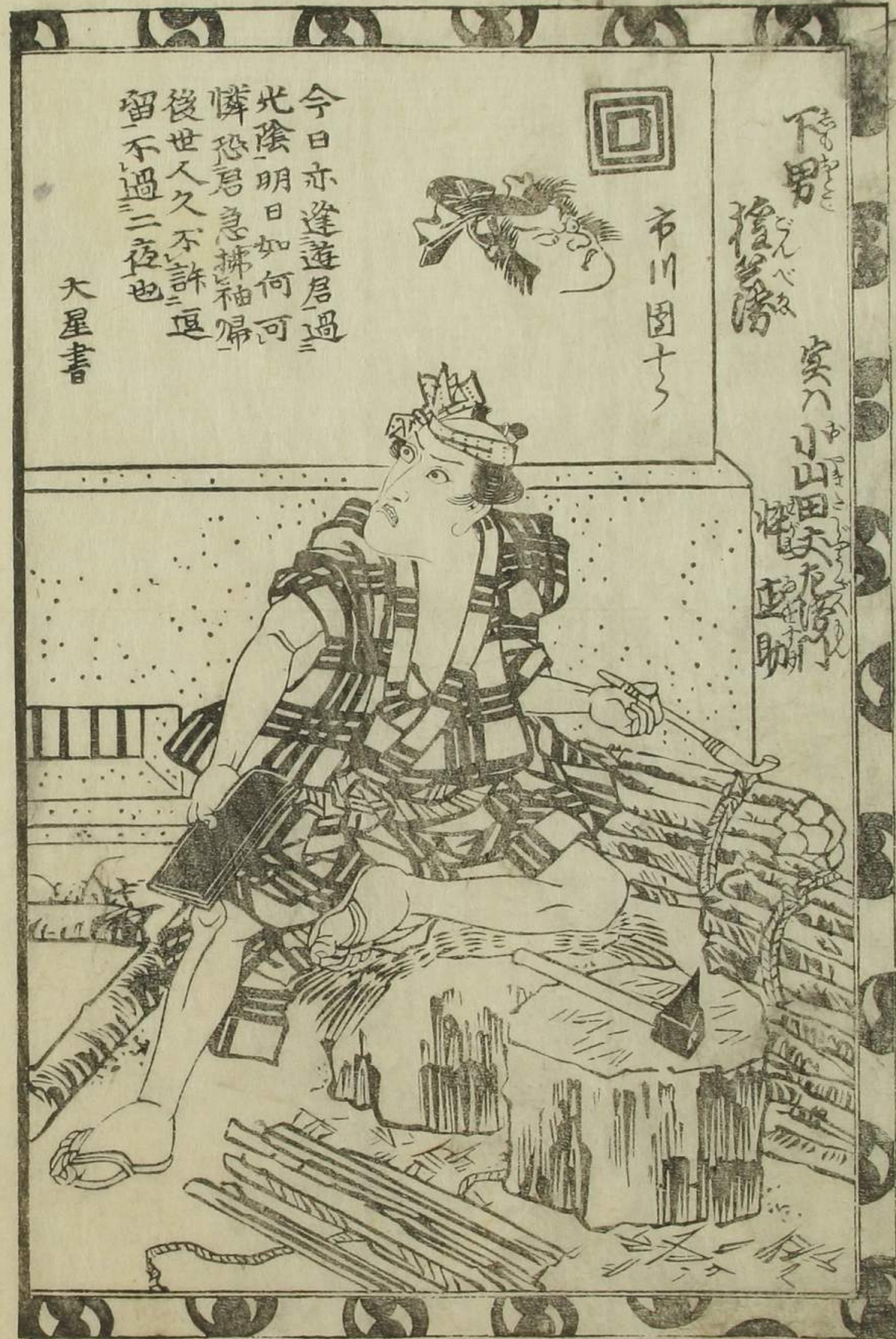




大星の召仕
水仕女

並助
かりん
いろは

まへ



回

市川団十郎

下男
後援
寅八
小山田
大助

今日亦逢遊居過
光陰明日如何可
憐恐君急拂袖歸
後世久不許還
留不過二夜也

大星書



[illegible]

張子

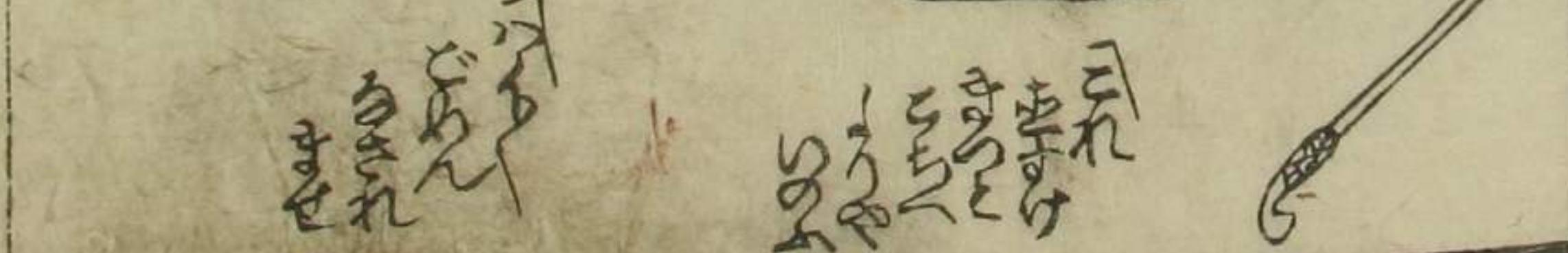
[illegible]


あつて
ふと
あつて
あつて
あつて
あつて
あつて
あつて
あつて
あつて



園田被

五



五渡亭國貞画

全部十二冊
合卷五冊



維時文政十年丁亥春正月發市



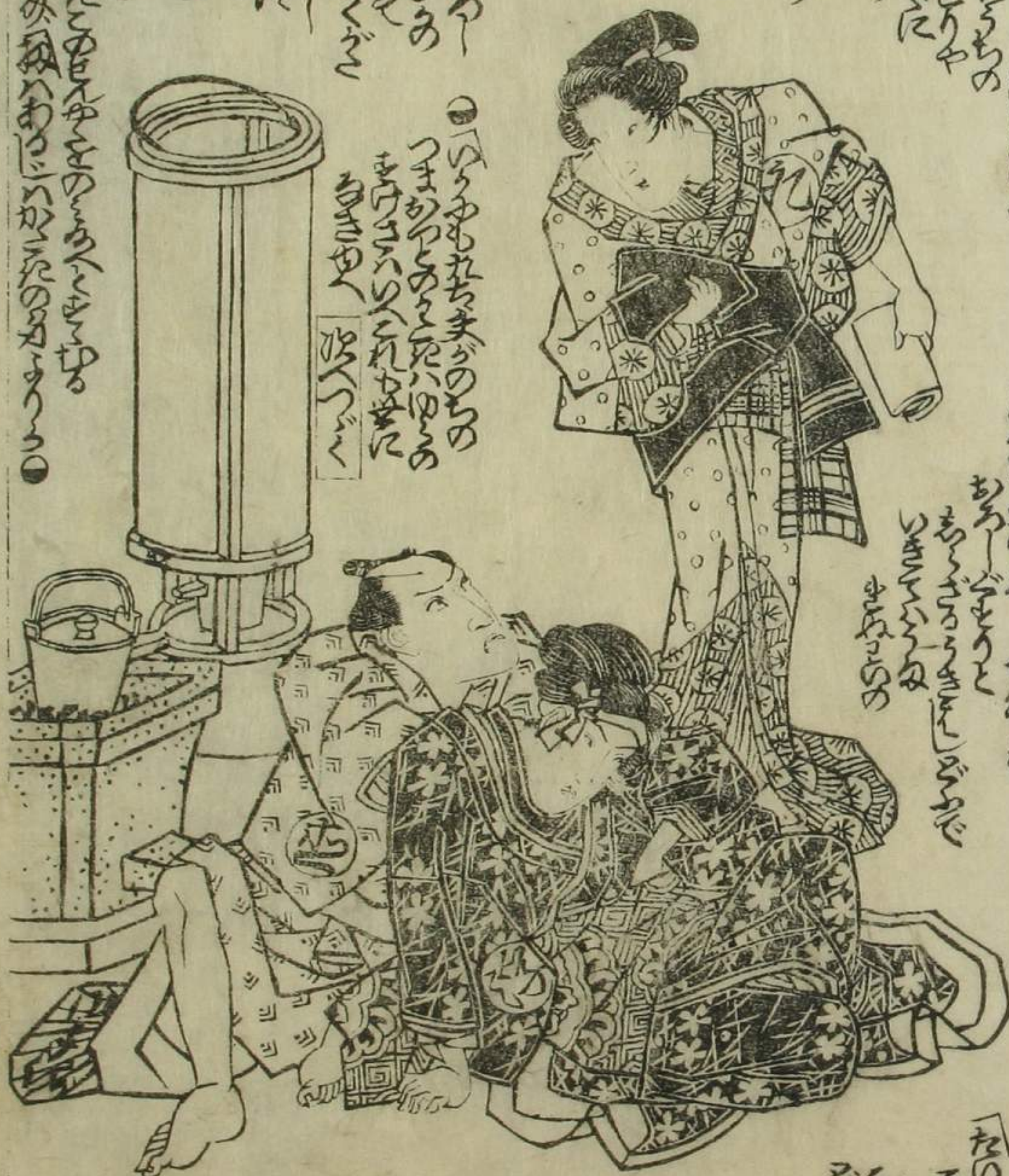
つゝま

いふやむれちまがのちの
つまぢやとて死なゆゑの
まがふといふこれちまに
まがふ

[illegible]

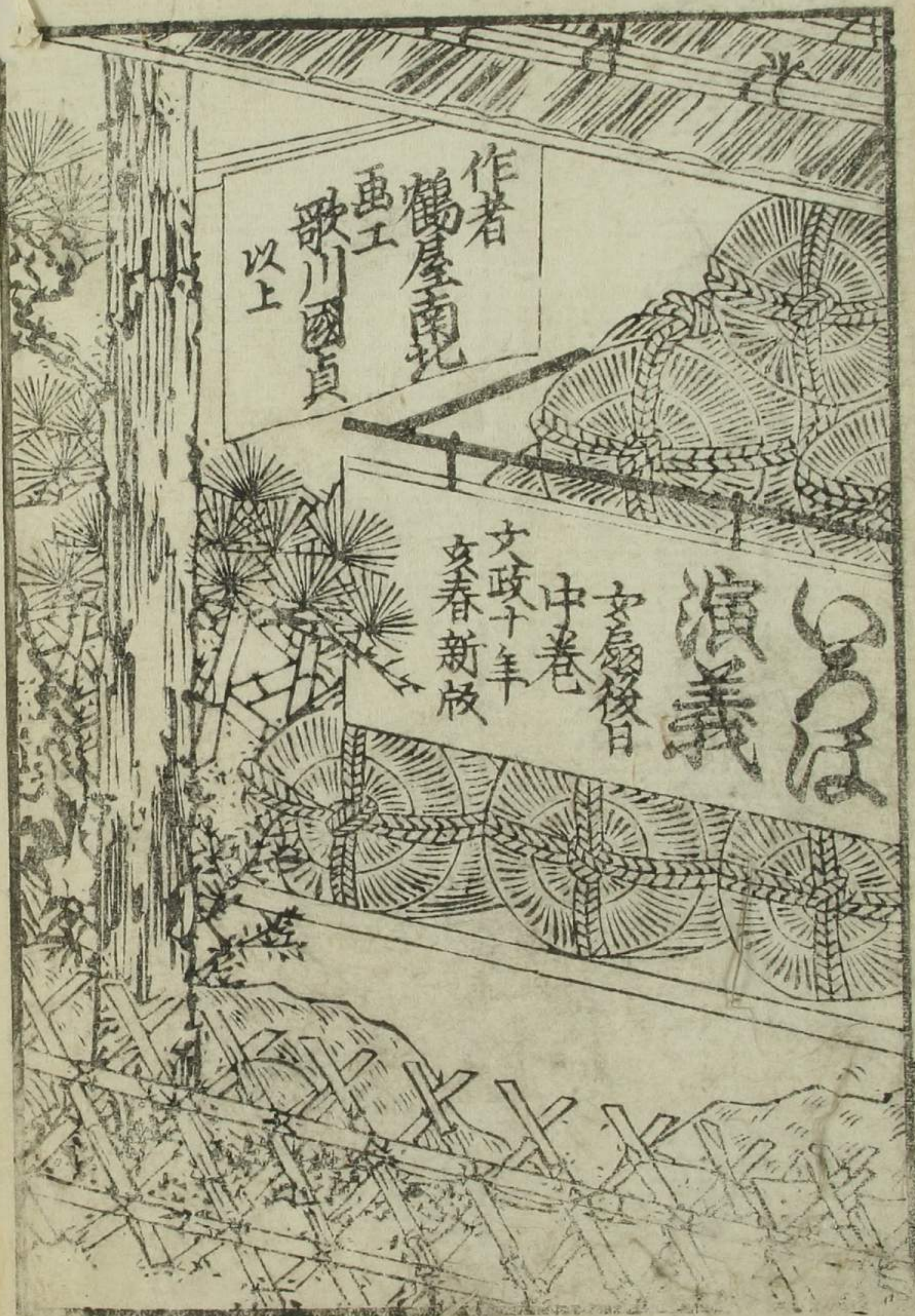
たのきなる
もの
おこを
そりや
ごき
ごき
く

五十六
うき
九の
ゆき
あり
し



作者
鶴屋南北
再工
歌川國貞
以上

演義
女扇後目
中卷
文政十年
玄春新版

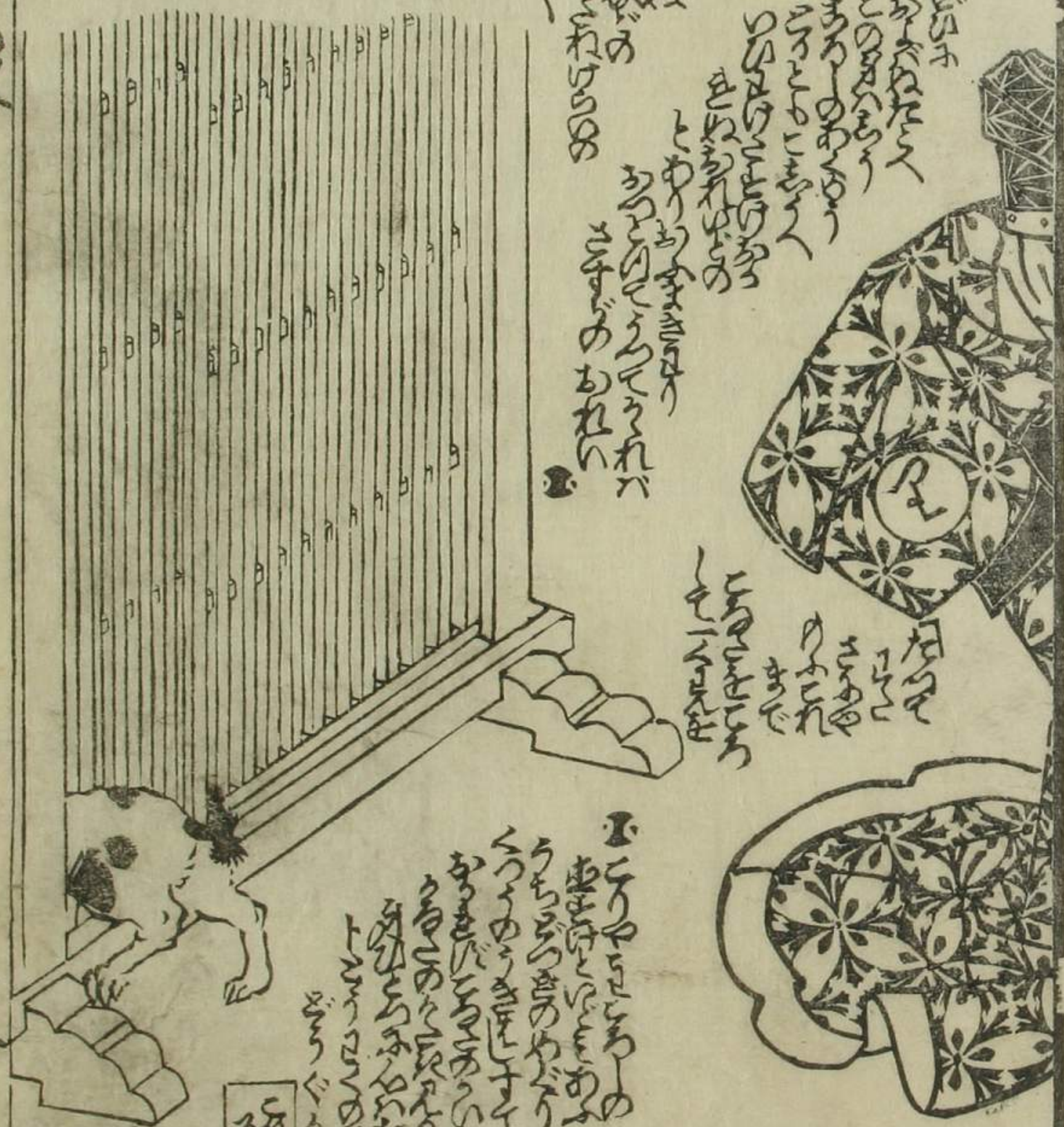


引ねてのしめ
 とろろあきの
 一ふんを
 やじら
 のれい
 ことさふ



あまねたう
このあまね
ありしもの
ことどもに
いふはの
さぬれゆめ
とわりあま
あまねたう
さすげの
あまね

あまね
さあ
りよこれ
まで
あまね
さあ
りよこれ
まで



玉子やちとちの
あまけといふもあふ
うちちのきめなり
くつものきしすて
おもひだちちのいやり
うもこのくみえなるあやうき
あはれなるあやうき
トさうくこのいけにぞ
さうくくちなり

これのはあ
ぬのまけ
や竹の
内まろ
かよのふを
さかれあめ
おそくつ

けのちうぞち
 なすけちまね
 こりまね
 うきまね
 ちまね
 ぐんま
 ちまね
 うき
 く

[illegible]

くさふやあふいあぶわりうも

いふふふ
ふふふ

いふふふ
ふふふ

いふふふ
ふふふ

國貞画 南北作

江戸神田辨慶橋通
草紙問屋丸屋文右衛門梓



後編五



全部

鶴屋南北作

後編 下冊

五渡馬車園貞画之



五三六
 みくらうちうき
 うりくあつたの
 はな
 可んよおんべい
 ようありとふた
 るより金おどろ
 のまへふると
 そえてさる
 かんより
 おより
 中れぢち
 あじ
 さふく
 こむ
 あひて
 あはれ
 墨

[illegible]

◎ありあけ
 まうで
 よるまゝと
 つてあるまじと
 はりぬれその手送にりも金

月令
 子令
 子令
 子令

それぞお
 国おきり
 日こころに
 ときなき
 されと
 おりあり
 まほろ
 国あり
 ひまに
 ききり
 めくめ
 おおの
 びさ
 づめ
 き
 おれ
 ゑ
 う
 を
 へ



あひ
おきのめ
おこりも
その方
あひのと
あひと
こんどと
わんを
とむる
あふ
雲

(7)

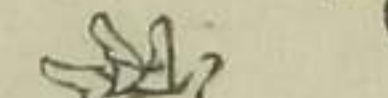


栗田 房之丞



ちきとけ
ちきまを
ろくごさ
のゆと
つばさよ
りんく
さむあ
ちうけん
くらふち
とう
おとり
まけり
いむすし
そ内
丹をその
わうん
いのさき
あて
ちき
こる
はせ
あん
あん
はん
はん

相もねぞに々々
 るもの初つそく
 年ておきさへ
 いそぐたひの
 あひひのとす
 屋の方を
 いきざせ
 おとこ
 合ちと
 さにうろ
 おとまり
 ぬる木あ
 ふんちあの
 ゆうやうれ
 まふくらみ
 らむわなご
 ぶのと
 のれの
 あじ
 あに
 みのも
 そまハ
 日あたふは
 ようく
 朝ア
 なめりの
 まうきの○

[illegible]



かみり本いろは演義 十冊 雀屋南北作
後日物語

盛衰記摺鉢無間 六冊 墨川草雪磨作
女船頭矢口之渡 五冊 國安作

傾城氣質夜梅川 五冊 市川三升作
滑稽諸國万作 豆三冊 十返舎一九作

金儲 化乃さてのり場 二冊 安秀作
滑稽忠臣狸の七役 二冊 同作

関の小方 廓之春道中 雙六 六冊 山東京山作
奴の小方

書林 地本錦繪問屋 文壽堂 神田 舟慶 九屋文右衛門板

書林 地本錦繪問屋 文壽堂 神田 舟慶 九屋文右衛門板

書林 地本錦繪問屋 文壽堂 神田 舟慶 九屋文右衛門板

書林 地本錦繪問屋 文壽堂 神田 舟慶 九屋文右衛門板

